

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
金融と証券 Money and Securities Markets		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ()		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
経営学Ⅰ・Ⅱ、ビジネス実務総論、ファイナンシャル・プランニングⅠ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
経営学Ⅰ、ビジネス実務総論、ファイナンシャル・プランニングⅠ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
國分三郎	本館 2F	木曜日 12:10~13:00		授業中に指示します
授業の概要				
<p>先ず経済社会における金融の意義を概観した後、金融政策における金融の機能や景気変動と金利、物価、為替の関係を学習する。次いで、金融機関の「種類」と金融資産投資としての金融商品の種類を取り上げる。ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す受講者にとっては、試験科目の内容と重複しているため試験対策としても有意義である。</p>				
授業の目標				
<p>①金融・証券市場における金利・為替・景気の間関係を説明できるようにする。 ②貯蓄型金融商品を理解して投資目的に合った金融商品の説明ができるようにする。 ③債券投資・株式投資の内容と特徴を説明できるようにする。</p>				
授業の方法				
基本的には講義形式であるが 履修者の理解を深めるために対話方式により金融と証券の時事問題を取り上げる。				
学習の成果 (学習成果)				
経済社会における景気変動・金利・為替・物価の間関係を理解した上で、投資目的に沿った財形型金融商品の種類をあげてその内容を説明し、さらに、債券市場と株式市場の特徴と内容を理解した上で投資目的に沿った債券と株式に選択のためのポイントを説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	はじめに(シラバスの説明、講義の狙いと進め方、成績評価の説明、受講の態度の説明)			
第2回目	社会における経済活動			
第3回目	経済社会における金融の役割			
第4回目	金融市場における金融機関と資金の流れ			
第5回目	経済政策と金融市場			
第6回目	マーケットの変動とその要因① (景気と金利・物価)			

第7回目	マーケットの変動とその要因②（景気と為替）	
第8回目	金融機関①（金融機関の役割とその業界）	
第9回目	金融機関②（金融機関の種類）	
第10回目	金融資産投資①（金融商品投資の予備知識）	
第11回目	金融資産投資②（預金）	
第12回目	金融資産投資③（株式）	
第13回目	金融資産投資⑤（債券）	
第14回目	債券投資②（投資信託9	
第15回目	ポートフォリオとデリバティブ	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	最高水準(S)としては、無遅刻・無欠席・無早退で授業に積極的に参加して、配布物資料以外の重要な事項についても主体的に調べ、授業での疑問点には進んで質問すること。
レポート	10%	最高水準(S)としては、証券と金融に関するDVDを鑑賞した後、その内容をテーマに添って論理的一貫性を以て記述すること。
調査報告書		
小テスト	10%	小テストの最高水準(S)としては、出題された5つの基本的な専門用語を、1問300字以内にその要点を纏めて記述すること。
試験	60%	期末試験の最高水準(S)としては、設問の主旨を理解した上で、設問で求められている内容を必要な専門用語を使いながら一貫性を以て論述すること。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書は使用しない。必要になった場合、そのつど資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
授業中の私語は禁止する。また、原則的に欠席・遅刻は禁止する。甚だしい時は減点の対象とする。		